

農福連携マッチング等支援事業 成果報告資料（秦野地域）

報告団体：社会福祉法人 秦野市社会福祉協議会

体制・役割

対象範囲：JAはだの管内

秦野市
農業振興課

秦野市
社会福祉協議会

関係機関の連絡調整
事業の企画

農業関係者へ事業の
周知・連絡調整

JAはだの

秦野市障害者地域
生活支援推進機構

秦野市
障害福祉課

福祉施設等へ事業の
周知・連絡調整

お試しノウフク

実施回数・・・4回

- ①農家：宮村農園(秦野市北矢名1054-25)
施設：みりおんりーふ秦野(秦野市河原町2-16)
日数：1日
人数：利用者3名、施設職員1名

* 令和5年3月に実施した
スタディツアーの参加者同士で
マッチングを行い、お試しノウ
フク後に本格実施



お試しノウフク

実施回数・・・4回

②農家：草山農園(秦野市平沢766)

施設：みりおんりーふ秦野(秦野市河原町2-16)

日数：1日

人数：利用者3名、施設職員1名

秦野の名産品である落花生。
機械化できない作業のため、今回依頼がありました。



落花生の選別の作業



お試しノウフク

実施回数・・・4回

③農家：山本農園(秦野市千村371-1)

施設：みりおんりーふ秦野(秦野市河原町2-16)

日数：1日

人数：利用者3名、施設職員1名



落花生のもぎ取り作業

施設職員

利用者

お試しノウフク

実施回数・・・4回

- ④農家：平農園(秦野市堀西1041)
- 施設：くず葉学園(秦野市菩提2058-2)
- 日数：1日
- 人数：利用者3名、施設職員1名

ポット一つ一つに肥料を入れていく作業でしたが、スムーズに行っていました。



お試しノウフクまとめ

| 農園名 | 施設名 | 参加者人数 | 作業内容 |
|------|---------|---------------|-------------|
| 宮村農園 | みりおんリーふ | 利用者3名、施設名職員1名 | ほうれん草の洗浄、選別 |
| 草山農園 | みりおんリーふ | 利用者3名、施設名職員1名 | 落花生の選別 |
| 山本農園 | みりおんリーふ | 利用者3名、施設名職員1名 | 落花生の選別のもぎ取り |
| 平農園 | くずは学園 | 利用者3名、施設名職員1名 | ポットへの肥料付け作業 |

マッチング件数

新規1件

宮村農園・・・みりおんリーふ秦野（就労B／知的、精神）

関係機関打ち合わせ

日時：令和5年6月15日（木） 13時30分～15時

場所：秦野市保健福祉センター

出席者：県、市、秦野都市農業支援センター、ぱれっと・はだの、市社協

内容：①現在のマッチング状況、作業状況等について情報共有を行いました。

②令和4年度の事業実施について

③令和5年度の取り組みについて

- ・ 県共生推進本部室から事業内容の説明
- ・ 取組に向けた課題の共有

施設意向調査

【対象】 秦野市内就労継続支援B型事業所 12か所

【実施時期】 令和5年8月

【実施理由】

施設の考え等も変わっているところもあると思い、再度実施。（前回：令和4年7月に実施）

【質問内容】

- ・ 農福連携の参入について
- ・ どのような作業が可能か
- ・ 利用者の送迎等を含めどの地区まで対応が可能か
- ・ 課題
- ・ 自由意見

⇒調査結果：新規施設から農福連携を行いたいと回答なし

- 【理由】
- ・ 利用者高齢化による体力の低下、手先の作業が難しい。
 - ・ 工賃が低い。
 - ・ 利用者が農業に関心が持てない。
 - ・ トイレがない。 等

【その他】

- ・ 施設で畑を持っている・・・3か所（松下園、弘済学園、みのりの家）
※みのりの家は生活介護だが、今年度から新たに取り組み始めた。
- ・ 数年前から施設外就労を行っている・・・1か所（みんなの広場→平塚/荒井ベジラス土屋農場へ）

その他

・ 社会福祉法人ビーハッピー 視察

経緯：令和5年3月に実施したスタディツアーの参加したことがきっかけで、県共生推進本部室を通じ、社会福祉法人ビーハッピーから農業への取組みについて相談があり、現地にてお話を聞きました。

出席者：社会福祉法人ビーハッピー

県共生推進本部室、JAはだの、地域生活支援センターぱれっと・はだの
市障害福祉課、市農業振興課、市社会福祉協議会

農業を始めるにあたり、農家との連携や今後の販路等について、関係機関からアドバイスをいただきました。



その他

・ 全国農業委員会が宮村農園を視察

日にち：令和6年1月24日（水）

場所：宮村農園

視察人数：12名

全国農業委員会都市農政対策協議会が宮村農園を視察

宮村氏及び施設から作業内容等を説明

参加者からの質問では「施設とはどのように関係を作ったのか」や「経営によってプラスは」など質問があり、「農福連携事業の活用」、「一般の方やボランティアの方より人数を集めやすい。」等回答

みりおんりーふから利用者の派遣に対して説明

作業日（みりおんりーふ）に合わせて実施されたため、実際の利用者の作業風景も視察、施設職員からは「細かい作業や力仕事など利用者の適性を見て派遣している」「実際の作業をすることで、社会貢献ができている実感を感じている。」等回答

・小田原市等が三武農園を視察

日にち：令和6年1月26日（金）

場 所：三嶽農園

視察者：小田原市農政課、小田原市障がい福祉課、障害者支援センター職員

小田原市で農福連携事業に取り組むため、既に農福連携を行っている三武農園を視察

農福連携のきっかけや現状を質問

三武氏より農福連携を始めたきっかけや現状、年間を通しての作業提供や工賃設定の難しさの課題等について話をされた。

令和4年度より継続して作業実施

- ①三武農園・・・秦野ワークセンター（就労B／身体）、くず葉学園（就労B／知的、精神）
- ②伊奈農園・・・みりおんりーふ秦野（就労B／知的、精神）

3 (2) 実績 マッチング状況・作業状況

三武農園×秦野ワークセンター（就労継続支援B型事業所／身体障害）

★令和3年度に農業施設の視察を行った農家



| 作業実績 | 作業内容 | 実施日 | 時間（合計） | 延べ人数 （利用者） |
|------|-----------|-----|--------|---------------|
| 5月 | そら豆へタ取・選別 | 4日 | 4時間 | 4名 |
| 6月 | 玉ねぎ皮むき | 3日 | 6時間 | 9名 |
| 8月 | 落花生の選別 | 10日 | 9時間 | 26名 |
| 9月 | 落花生の選別 | 15日 | 25.5時間 | 39名 |
| 10月 | ハウス清掃 | 7日 | 11時間 | 18名 |
| 11月 | イチゴ苗処理 | 9日 | 17時間 | 25名 |
| 合計 | | 48日 | 72.5時間 | 121名 |

3 (2) 実績 マッチング状況・作業状況

三武農園 × くず葉学園 (就労継続支援B型事業所 / 知的・精神)

★令和3年度に農業施設の視察を行った農家



ハウスの草取り

| 作業実績 | 作業内容 | 実施日 | 時間 (合計) | 延べ人数 (利用者) |
|------|----------------|-----|---------|------------|
| 4月 | ハウス清掃 | 5日 | 8時間 | 5名 |
| 5月 | 落花生まき ハウス清掃 | 3日 | 5時間 | 9名 |
| 7月 | 落花生草取り | 1日 | 1.5時間 | 1名 |
| 合計 | | 4日 | 14.5時間 | 15名 |

3 (2) 実績 マッチング状況・作業状況

伊奈農園×みりおんりーふ秦野（就労継続支援B型事業所／精神・知的）

作業実績

| | 作業内容 | 実施日 | 時間（合計） | 延べ人数 （利用者） |
|----|--------------------------------|-----|--------|---------------|
| 6月 | 落花生除草 じゃがいも収穫 玉ねぎ髭等切り落とし | 4日 | 20時間 | 12名 |
| | 合計 | 4日 | 20時間 | 12名 |

3 (2) 実績 マッチング状況・作業状況

宮村農園×みりおんりーふ秦野（就労継続支援B型事業所／精神・知的）

| 作業実績 | 作業内容 | 実施日 | 時間（合計） | 延べ人数（利用者） |
|------|--------------|-----|--------|-----------|
| 4月 | ほうれん草の間引き等 | 3日 | 12時間 | 9名 |
| 5月 | 小松菜収穫・洗浄等 | 3日 | 15時間 | 9名 |
| 6月 | 小松菜・洗浄・袋詰め等 | 3日 | 15時間 | 9名 |
| 7月 | トマト・玉ねぎ収穫等 | 2日 | 9時間 | 15名 |
| 9月 | みかん収穫等 | 1日 | 5時間 | 3名 |
| 10月 | みかん収穫、堆肥散布等 | 8日 | 32時間 | 24名 |
| 11月 | みかん収穫、堆肥散布等 | 12日 | 46時間 | 36名 |
| 12月 | ミカン収穫等 | 11日 | 44時間 | 33名 |
| 1月 | 小松菜・ほうれん草洗浄等 | 9日 | 36時間 | 26名 |
| 2月 | 小松菜・ほうれん草洗浄等 | 10日 | 40時間 | 27名 |
| 合計 | | 62日 | 254時間 | 45名 |



振り返り

評価

事業拡大に取り組む施設が出てきたが、1年を通しての作業提供があると、更に施設としても農福連携に参入しやすい。

課題

- ・ 現地だけでなく、持ち帰りでの施設内で可能な作業や年間通しての需要があると、さらに施設として参入しやすい。
- ・ 契約内容や工賃の明確化

今後

以上の課題解決のため、関係機関とのより一層の連携に取り組む